

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 藤井 信
 新潟県山岳協会
 長岡市学校町3-11-7
 TEL 0258-32-4835

事務局 土田幸雄
 長岡市中沢4-426-4
 TEL 0258-39-2700

編集者 遠藤家之進正和
 白根市大字鷺ノ木新田1049
 TEL 025-362-5004

平成12年度文部省中高年安全登山指導者講習会報告

中高年登山委員長

坂井 厚

9月1日から3日までの3日間、妙高高原町池ノ平スポーツハウス及び高谷池で中部地区（北信越、東海、近畿の15府県）の講習会を実施したので報告します。

主催は文部省、(社)日本山岳協会、新潟県教育委員会、新潟県山岳協会。

受講者は愛知、滋賀両県を除く13府県から34名（県内3団体1個人の9名（協会加盟2団体7名）、主催者側は講師4名、文部省3名、日山協会2名、実技講師及び支援の協会関係者19名、事務局（県）5名の33名合計67名。

挨拶として文部省登山研究所柳沢署長は、山で見る大半の人は中高年、その70〜80%は、事故の確率が多い。また、大学山岳部リーダー研修会（冬山）で崩落事故については、心配とご協力にお詫びと感謝を申し上げます。

天候急変は山登りにはあり救助はままならない、自分達での対応の心構えが必要。

経験・プラス生きた教訓（知恵）は登山ではウエイトがあり、知識・技術・経験で中高年とのつながりを。また、他のスポーツをとり入れた総合スポーツへ目指して欲しいと挨拶。

坂口日山協会長は、この講習会の成果は徐々にあがってきているが、一部にマンネリが見られる。登山者の80%以上は中高年、平成元年10月の事故を契機に実施。登山事故、昔は20〜30歳代の青年層、現在中高年で憂慮すべき問題です。講習会を充実したものにしたいと述べた。

岡本県教委保健体育課長からは、山の選定、トレーニングが必要。指導・訓練の場が少ないことを感じている。岡山妙高高原町長 先般山

新年会案内

日時 2001年1月21日(日)
 15時開宴

会場 新潟市南万代1-8
 新潟厚生年金会館
 電話 025-243-3551

会費 6,000円
 申込 〒956-0056
 新潟市大栄町5-8-15
 田辺信行
 電話 0254-24-8057
 ハガキ・文書にて申込願います。

理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。
 役員、理事、委員各位は午後1時までにご参集願います。



開講式であいさつする坂口日山協会長

里案内人の会が発足した。ガイドは盛況で、マナーの充実を願う。21世紀へは、健康・観光・自然がプラスした人の心の和で繋げたいと歓迎の挨拶でした。

講演「中高年登山指導者に求められるもの」
（株）日協会長 坂口三郎

最近の若い世代の事件は、あながち、彼等だけのものではない。自然の中に浸り、山から素直に受けると、生きる力、楽しむ力が湧いて来、進歩して行く。

登山では、リスクを如何に少なくするかが要る。健康や交通の選定、事故に遭ってはパニック状態を回避しなければならぬ。脱出方法その基礎技術を学ぶことです。

日本山岳会が戦後国民体育大会運営に関わっていたが、1960年日本山岳協会が社団法人として設立され、本年40周年を迎えた。

個人としては、昭和36年秋田国体（第16回八幡平）に関わっていたとき、実弟が南アルプス悪沢岳（東岳）で頂上を越えた鞍部で疲労凍死したことです。防寒具はリユック

の中で、単独行の悲哀を感じた。

規制では、富山県で登山届出条例、群馬県谷川岳遭難防止条例がある。

谷川岳では、70年間に119件、死亡行方不明777人、年間10〜11人になる。

昭和35年・56件・33人、平成12年・6件・2人、7月現在であり、平成年代は減少していることは、岩場の登攀が少なくなっているからです。

マナーについて、不心得者がいないわけではなく、充分心して欲しい。トイレについては、真剣に持ち帰りを検討して貰いたい。

ヘリコプターは、下降気流が怖く100%ではないと締括った。

講義I「新潟県山岳協会の現状と課題」
藤井協会会長

1、県内登山の状況は県境縦走が点から線へとなった。

登山道の裸地化からの復活に、永い地道なボランティアの働きがある。

2、協会の組織の現状と64国体へ役員の養成と山岳総合センター（仮称）の構想働

き掛けを述べた。

講義II「新潟県山岳遭難発生状況」
佐藤県警地域課係長

11年中登山、山菜採りその他を含めて40才以上が約91%と中高年の危険性を。ヘリなど通報後30分で出動できること。遭難者は明るい服装と鏡等の使用で位置の知らせを。

妙高山は下降気流が有る所等話された。

講義III「山の天気と遭難」
渡部気象協会

山の地形は複雑、あくまで予報である。

夏山・早出早着を。秋・前線前の雲に注意、寒気を引き連れて動くので太平洋岸とは

違う。時速40〜50kmであれば1日約1千kmの移動。秋から冬にかけての気温の減率は、

春から夏にかけてよりも急、観天望気の必要性等、気象の基礎知識は、中高年のリーダーとして心得ておくべきと話された。

講義IV「中高年登山者を組織して」

木下新潟楽山協会

昭和51年山岳OBの会として発足。その性格に触れ、山への指向が違うことで山岳会の延長でなく、他の山岳会と異質なものを感じている。

入会資格40〜70才が現在41〜85才の構成、平均年齢は年々上がりつつある。6割近い女性会員、660名の多数になると運営に問題点が出てくる。

活動状況 年間230〜250コースの会主催山行、年2回の集中。参加者数延べ4000人。65名の常任リーダー、専門化し負担が大、一般会員は連れて行って貰っている（美点欠点）。

リーダー 会員3年以上、グレードB以上、60才以下推薦山行、コース詳細発行、申込10〜50人規模

安全対策 山個人（自己申告）のグレード設定、5〜6名の班編成と小隊編成、冬山、岩登り、沢登りの禁止、事務局への事前報告、救助隊の常設

新人会員の研修義務（座学1日）年2回の研修、賠償保険を含むスポーツ保険の強制加入、家族の理解と自己責任の徹底

懸案事項として、事務ボランティアの確保が年々難しい、組織の維持対策、目的を多様化しない、会員間に差別は設けない。

高齢化と志向の多様化には健康のうち山を止めたくない緩行コースの設定（グレードD・Eの新設）参加者に合わせるトレーニングコースの設定模索中。

会に対する帰属意識が少ない、鏡うことが無い、混乱した事故が無い、連帯感が少なくなってきた反面、伝統が培われてきていると締括った。

県内では一番大所帯の山の会ならではの運営の悩みであるが、他の山岳会に示唆の富んだ講義内容でした。

登山事前学習・準備 各班毎に、自己紹介、コース紹介、各地の中高年に対する取組などを話し合う（班編成は経歴書から経験指導者を第1班とし、以下勘案して初心者級の第4班、約9人程の班編成とした。取組内容は1・2班は捻挫、3班骨折、4班病気疾患に事前計画設定）。

第2日 9月2日(土) 実技、登山行動、事前学習

のものを主とし、笹ヶ峰より高谷池に到り、消防防災ヘリコプター利用の救出訓練の見学それに到る訓練実技、下りにおける歩行等の指導実技を実施。

笹ヶ峰より5分程で登り口、50分程で黒沢着。一般登山者も混じり多い。経験者指導者級の多い1班は既に出発したあと。急坂曲折登りで十二曲。東側の眺め良く、やがてオオシラビソの林中から緩い登りになると、植性は矮性となり、富士見平2班はここで地図の見方、植物景観の相違など。

一般登山者が此所からの所要時間等質問してくる。

黒沢岳西側の路に白い噴煙を上げる焼山、赤い三角屋根の高谷池ヒュッテが北に見え、それへ目指し平坦な路・木道で高谷池ヒュッテ到着。

装備点検の班、地形図・不治露営、体調不良、脚痙攣の応急処置(医療係実技)の班、杖協議の班、参加者各県の取組協議の班等がみられた。

西に雲の一群が見え、風が先刻から折強くなる。12時50分ヒュッテ前に各班毎集合。消防防災ヘリコプターでダミ―利用の吊り上げ救出訓練で

の飛来を持つ。

天候不安定の中、待ち数分、飛行音聞こえずで視界不良引返したとのこと。よって参加者に天候不良で飛行中止した旨連絡。以後の実技は中止し班毎に下山を指示した。

各班の報告は

1班 捻挫テーピングは各自指導実施で省略。中高校対策状況を述べて貰ったが、各々違うこと。組織外は別ではないか矛盾を感じる。事故は何処でもなので、登り始める前からの準備啓蒙が必要。

2班 始め登りで早かった。富士見平で地図、高谷池では装備の講義、この中で常時5〜6メートル程の綱引を各自携帯している(三重)等参考になった。

3班 杖の使用可否を討議、下りで人を背負ったの搬出を体験した。

4班 体不調の病人の設定であったが、脚の痙攣の治し方などを行った。実際にあり有効であった。高谷池では地形図とフォーストビバークの実技。ベテランが多いので下りが早く、歩行注意とした。医療班 高谷池で痙攣マッサージのモデルを行った。こ

れには塩分の補給も良い。高年になると骨の擦り減りがあるので、庇うから鍛えること。文部省の総評 ヘリは天気具合で中止になったが、万能ではない。

以上の実技実施報告があった。

第3日 9月3日(日)

講義V「中高校登山ための登山医学」

山医学

斎藤医院長

医者の立場から(文部省発行「楽しい登山」手引き)

高血圧、心臓病、脳卒中等は動脈硬化から血管に障害があつてのもの。硬脂血症は生活習慣病、肥満からくる。肥満防止の健康にはスポーツが良い。登山は気分の転換、健康保持に適す。

中高校の体の特徴 20才を頂点100%として、年1%づつ減、衰える。メデイカルチェックの必要。登山中、トレーニング中の発病、心筋梗塞、脳梗塞など、動脈硬化の知らぬ間に進行を考慮してのセルフコントロールが必要。登山中の水塩分の不足は脱水症状となる。熱中症、熱疲労では循環機能低下、

虚脱状態、熱痙攣も同様。水分の補給のみは塩分不足となり、血液濃度を下げる。発汗では0・9%の塩分が出る。スポーツドリンクには一握みの塩を加える。喉が渇く前に休み毎に少しずつ飲む。朝食はしっかり食す。頂上でのビール、コーヒ―は利尿作用あり脱水症状になる時もある。

腿の大腿四頭筋は最初に衰えてくる。ブレイキは緊張性収縮、下山中のバランス崩れは調整能力の低下、紐の締め直し、杖の2本使用はより有効、膝は水平方向によいが下

りはサポーター使用が効果がある。中高校に自律が求められていると講義を締括した。研究協議「中高校登山に関する諸問題」第1分科会「中高校登山者の事故防止について」第2分科会「中高校登山者の事故防止について」全体会 第1分科会 土田司会者報告 安全登山の組織化には、具体化、明確化が必要。中高校の受皿はしたくないという本



搬出の実体験を行う3班

音が出ていた。55才以下等の
 年令制限があるのは現役が大
 部分で、指導者不足、運営に
 事故の起こりやすさで事後処
 理が大変。公民館活動等新潟
 市などで中高年に対する組織
 化は、誰かが主体となつてや
 るのが見えず、括って正面
 的な組織化の結論は出ない。

第2分科会 小林司会者報告

事故防止については、組織
 の規模で認識の差がある。三
 重県の山岳会では、OBが組
 織化、自分達の日頃の訓練が
 必要とあった。

連れて行く、連れてもらっ
 て行くの意識は、責任問題で
 意志疎通が大事。保険加入。
 ツアー会社で差がある。助言
 が必要。きちんと行うことが
 要るが差もある。

講評
 柳沢文登研所長

事故は中高年で増加、未組
 織でも増加している。組織化
 は充分ではないが、徐々に中
 高年に手を延べて貰いたい。プ
 ロガイドは増えているが、旅行
 会社にも力を貸して貰いたい。

中高年の第一の受皿は、市
 町村、公民館、その活動が重

要。これからは総合型スポー
 ツクラブへ吸収されるのでは
 ないか。

事故の対応力は実際の検討
 が要る。安全確保のロープ操
 作等三重県で実施している訓
 練の搬送、ホーストビーク
 などは出来るのではないかと
 動物的勘が鈍っている現代、
 感受性を高めよう。

荒木日山協専務理事 皆さん
 のこれからの活動に期待す。

中高年指導、安全登山と自分
 の山も同時に。中央紙で4
 8月では取り上げが減ってい
 る、雑誌でもブームの取り上
 げが少なくなってきた。

登山に社会性、整合性、調
 協性に思想性、技術性を持つ
 た指導に迫力を付けてくださ
 いと締め括った。

次期開催地予報 三重県
 水谷三重県岳連副会長

来年は山は低いが、169
 5メートルの大白ヶ原・鈴鹿・
 御在所等ある。滝は綺麗だが
 複雑地形、年数名死亡有り。
 多数の参加を待つ。

修了証書を三重県からの水
 谷氏が代表して、柳沢文部省
 登山研修所長より授与された。

❖ お願い ❖

・冬山登山の事故防止

登山事故の防止については、
 充分注意をされていることと
 思いますが、冬山シーズンを
 迎え、冬山登山の事故防止の
 通知が文部省、新潟県、長野
 県山岳遭難防止対策協会長か
 ら届いていますので、次の事
 項を守り安全登山を行って
 ください。

遭難事故が増えています!!

もう一度点検

計画と対応力

冬の自然は厳しく変化しま
 す。冬山経験豊富な信頼出来
 るリーダーと、事故に対応出
 来る力を持ったパーティーで
 あることが必要です。

- 1、エスケープルートは考
 えているか
- 2、気象通報に注意してい
 るか
- 3、救急法のための医薬装
 備は整えているか
- 4、雪崩に対する装備の準
 備は整えたか
- 5、緊急時の連絡手段は用意
 したか
- 6、山岳保険の加入は済んだ
 か

平成13年1月専門委員会行事予定

日 時	行 事 名	会 場	担 当
13.1.21	新年会	新潟市	総務
13.1.21	新潟県山岳遭難対策協議会	新潟県庁	遭難対策

日山協・文部省登山研修所等1月行事予定

日 時	行 事 名	会 場	担 当
13.1.11	常務理事会	東京	日山協総務
13.1.20	新年会	東京	日山協総務
13.1.22~29	B級コーチ専門科目養成講習会	富士山・ 秦野山岳	日山協指導
13.1.27~28	常任委員研修会	千葉	日山協自然保護

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀通 6 ☎(025)222-3736

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)